



Health Sciences Leadership Program

履修要項

Full Membership

改訂年月日：2021年8月11日

東京医科歯科大学

目次

背景と趣旨	2
HSLP の使命	4
HSLP 修了要件	4
本プログラム修了までに修得すべき資質（修了時コンピテンシー）	4
使命達成のための方略	7
アドミッションポリシー	7
カリキュラムポリシー	7
修了時コンピテンシー獲得支援	8
コースワーク	8
ワークショップ	9
Tutoring requirement	9
Curriculum map	10
振り返りとメンタリング	10
コミュニティ形成支援	10
文化の醸成（HSLP Way）	10
Retreat	12
Academic society	12
Casual/closed FYRM	12
Chief students制度	12
必須履修科目の概要	13
必須履修科目の履修時期および履修に際しての必須要件	15
履修継続要件、修了要件、履修復帰要件	16
履修継続要件および修了要件	16
履修復帰要件	18
履修方法、履修取消、成績、授業時間、講義室	19

背景と趣旨

日本が国内での対応に追われ、海外への視野を閉ざしていた、バブル崩壊後の 20 年間に、積極的な海外の国々は市場や事業運営においても、世界へとフィールドを広げた。そして現在先進国と発展途上国との格差はさらに狭まり、国家間の数々の垣根も徐々に取り払われてきた。今こそ日本も積極的な世界展開を図り、躍進を遂げなければ、もはや主要国としての地位を保つことはできない。しかし現状は、日本から海外への留学者数は減少する一方で、海外勤務を希望しない若手社員は増加している。他のアジア諸国が積極的に海外留学数を増やしている中で、日本はむしろ遅れをとっている。

医療においても例外ではない。確かに日本は、がん治療や内視鏡検査などでは高度な医療水準を保有し、人口 100 万人当たりの医療機器保有台数も他国に比べると群を抜いて高い。そして、これら先進機器に加え、世界に誇れる国民皆保険制度により、世界最高水準の平均寿命を実現している。しかし、情報技術の革新と人の移動の増加により医療の国際標準化のニーズが高まりつつあるなか、日本の医療現場の実情はどうであろうか。以前より大病院では「3 時間待ちの 3 分診療」と揶揄されてきたが、高齢化により医療保険財政がますます逼迫し、医療提供者の勤務はさらなる過酷化が予想される中で、国際標準に沿った質の高い医療を提供するのは容易ではない。実際、医療の国際標準化を目的とした国際的病院評価認証機関 (Joint Commission International, JCI) により認証を受けた国内医療機関はまだ少ない。一方、他のアジア諸国では、既に多くの医療機関が認証を受けている。さらに深刻なのは、提供される医療の国際標準化の遅れだけでなく、医療を創り出す生命科学研究、国際保健・医療政策、そして医療産業の分野においても、グローバルな舞台における日本のプレゼンスがどんどん失われつつあることである。

例えば生命科学研究分野では、現在日本は医薬品・医療機器分野でも輸入超過に陥っており、その基盤となる基礎研究における国際競争力が低下している。論文数を研究活動のアウトプットとしてをみた場合、日本は米中英独に次いで第 5 位まで落ち込んでいる。各分野の Top10% 論文数シェアでは日本の低迷はさらに顕著であり (米英独中仏に次ぎ第 6 位)、国際共著率も低い (英仏独米に次ぎ第 5 位)。さらに、大学院生や教員において内向き思考が広がっており、海外研究留学希望者数も減少している。

また、国際保健/医療政策分野では、日本は国連拠出金が米国に次いで第 2 位であるにもかかわらず、他の国連機関と同様に、世界保健機関 (WHO) においても日本人スタッフ数は、加盟国中でもかなり低い (人口や拠出金額から概算される望ましい職員数の 23-31% 程度)。これは、志願者が少ないからでは決してなく、特に語学力の観点から我が国からの応募者が選考に耐えられないことに大きく起因している。本分野におけるリーダーの輩出は喫緊の課題である。

医療産業分野については、例えば近年アジア各国では医療観光産業が発展しているが、日本にはそれらの国を上回る高い医療技術・サービスがありながら、大きく出遅れている。政府の新成長戦略のもと観光庁が進める医療観光等医療産業分野の発展のためには、高い英語運用力のもと質の高い医療サービスを提供できる人材育成が遅れている。

このような、日本の医療における国際標準化の遅れ、そして医療の革新・医療政策・医療産業という分野での日本のプレゼンスの低下は、世界の共通言語である英語の運用力が低いことだけではなく、世界という広い視点のもとで、世界において日本が果たすべき役割を理解し、その上で複雑な国際医学・医療問題の解決のために様々な文化背景の相手と建設的に議論・協働できる高い教養と知的スキル・対人スキル・リーダーシップスキルが欠如していることにも起因している。

成熟した国家である日本が、主要先進国として、今後、生命科学研究・国際保健/医療政策・医療産業分野において世界を支え牽引し、人類の発展に健康面から貢献するためには、それら分野でグローバルな舞台でリーダーとして活躍する人材の育成が急務である。

本学は、「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」という基本理念の下に、「幅広い教養と豊かな感性を備えた人間性の涵養」、「自己問題提起、自己問題解決型の創造的人間の養成」、そして「国際性豊かな医療人、研究者養成」という三つの教育理念を掲げ、これまでに教育および研究における国際化を積極的に進めてきた。それを受け、グローバルなキャリアを志す学生が本学には多く入学してくる。実際、入学直後に施行しているTOEFLの平均点は年々高まっており、また卒業までに海外留学を経験する者の比率も上昇しつつある。その本学が、日本が主要先進国として生命科学研究・国際保健/医療政策・医療産業分野において世界を支え牽引していくために中心的役割を担う、グローバルな舞台でリーダーとして活躍し変革を生み出すことのできる人材を育成することは、本学に課せられた使命であると認識し、ここに本プログラムを開設するに至った。

2014年秋 HSLP 創設にあたって

HSLP の使命 (Promise by the program to the society)

生命科学研究・国際保健/医療政策・医療産業などの様々な医療関連分野において、グローバルな視野/枠組み/舞台で、医学/医療を創造し変革を起こす人材を育成する。そのために、生物医学から社会科学に渡る幅広い視野および高い問題解決能力の獲得、そして領域/学科/学年/世代を超えて支え刺激し合うコミュニティの形成を支援する。

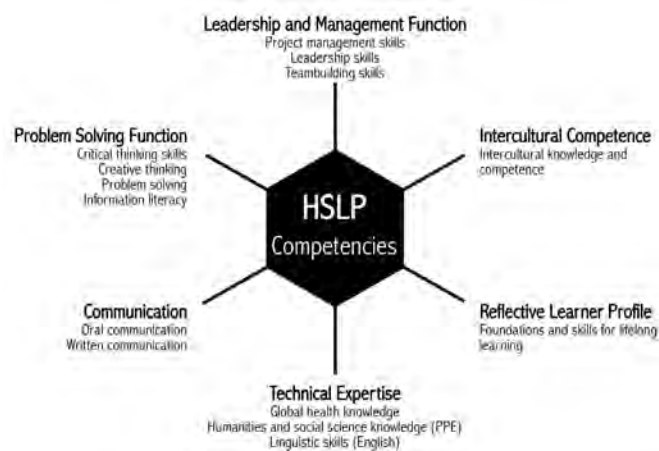
HSLP 修了要件

HSLP は学位授与プログラムではないため Diploma policy は設定していないが、プログラム使命達成を目的として人材育成を行うものであるため、以下の要件を満たした者に対し、卒業時にプログラム修了証を授与する。

- ・ 本プログラムにおける必須履修科目の単位を全て取得していること
- ・ Tutoring requirement の規定を満たしていること
- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること
- ・ TOEFL iBT 100 点以上（またはプログラムが認める他の外部英語検定試験（4 技能）でこれに相当する成績）、または HSLP 応募時の点数より 20 点以上のスコアアップ（あるいは相応の英語力基準を満たすこと）
- ・ 第 2 学年終了時まで、最低 1 回は“Find-Your-Role-Model” Session に参加していること（2020 年度秋以降に履修開始したフルメンバーから適用）
- ・ HSLP の修了時コンピテンシーすべてについて Capstone に到達していること
- ・ 単位取得を伴う海外留学プログラムへ参加していること（海外の公衆衛生大学院など、本学の単位の取得を伴わない留学についても考慮されうる）

本プログラム修了までに修得すべき資質（修了時コンピテンシー）

本プログラムが、上述した使命を達成するために、履修生が下記の「修了までに習得すべき資質（以下、修了時コンピテンシー）」を獲得するのを最大限支援する環境および機会をプログラムが創出する。なお、各コンピテンシーについて、そのマイルストーンも含め詳細に記述した表を、本要項最後に付している。



HSLP において、プログラム修了までに修得すべき資質（コンピテンシー）の 6 つのカテゴリー

【Technical Expertise】

■ Global health knowledge

グローバルヘルス（地球規模での健康課題解決や健康レベル向上に向けた集学的なアプローチ）領域で求められる知識

■ Humanities and social science knowledge (PPE: Philosophy, Politics, Economics) relevant to health sciences

医学/医療問題の包括的理解/解決のために必須である、社会哲学、政治学、経済学に関する知識と理解

- **Philosophy:** knowledge and understanding of basic philosophical concepts, theories and arguments.
- **Politics:** knowledge and understanding of key areas of the discipline, including political theory and international relations.
- **Economics:** knowledge and understanding of the basic principles of modern economics, including appropriate mathematical and statistical techniques.

■ Linguistic skills (English)

語学力（英語）

【Reflective Learner Profile】

■ Foundations and skills for lifelong learning

生涯学習の基礎とスキル

Lifelong learning is “all purposeful learning activity, undertaken on an ongoing basis with the aim of improving knowledge, skills and competence”. An endeavor of HSLP is to prepare students to be this type of learner by developing specific dispositions and skills described in this rubric while in program.

生涯学習とは「知識、スキル、そしてコンピテンスの改善を行うという目的を継続的に引き受ける全ての目的的学习活動」である。HSLPでは、プログラムに在籍している間に、このルーブリックに記載されている特定の性向やスキルを発達させることで、このタイプの学習者になるよう学生を準備させることである。

【Communication】

■ Oral communication

口頭コミュニケーション

Oral communication is a prepared, purposeful presentation designed to increase knowledge, to foster understanding, or to promote change in the listeners' attitudes, values, beliefs, or behaviors.

口頭コミュニケーションとは、聴衆の知識を増やしたり、理解を深めたり、あるいは、聴衆の態度や価値観、信念や、行動を変えることを目的とした、あらかじめしっかり準備された、口頭プレゼンテーションのことである。

■ Written communication

文書コミュニケーション

Written communication is the development and expression of ideas in writing. Written communication involves learning to work in many genres and styles. It can involve working with many different writing technologies, and mixing texts, data, and images. Written communication abilities develop through iterative experiences across the curriculum.

文章コミュニケーションとは、文章作成（ライティング）によって自分の意見/考えを述べ、その妥当性/普遍性を文書において議論/検討することである。文章コミュニケーションに際しては、様々なジャンルや様々な学問/専門分野において求められる文書作成上の作法/ルール/決め事（非公式/暗黙のものも含む）に従わなければならない。また、多様な文章作成技術（作文技術）を用いたり、テキスト・データ・イメージを効果的におりませたりする必要である。文章コミュニケーション能力は、カリキュラム全体を通して、実践と省察を繰り返すことによって、磨かれる。

【Problem Solving Function】

■ Critical thinking skills

批判的思考

Critical thinking is a habit of mind characterized by the comprehensive exploration of issues, ideas, artifacts, and events before accepting or formulating an opinion or conclusion.

批判的思考とは、ある意見や結論に同意したり、または自身の意見や結論を案出したりする前に、問題点、意見、人間が作り出した物、出来事などを様々な観点から検証するという思考習慣のことである。

■ Creative thinking

創造的思考

Creative thinking is both the capacity to combine or synthesize existing ideas, images, or expertise in original ways and the experience of thinking, reacting, and working in an imaginative way characterized by a high degree of innovation, divergent thinking, and risk taking.

創造的思考とは、既存のアイデア、イメージや専門的知識をオリジナルなやり方で結合し統合する能力であり、また、高いレベルの革新的思考、拡散的思考、リスクテイキングに特徴付けられる想像的なやり方で思考し、対応し、取り組むことである。

■ Problem solving

Problem solving is the process of designing, evaluating, and implementing a strategy to answer an open-ended question or achieve a desired goal.

問題解決とは、明確な答えのない複雑な問題を解決したり、挑戦的な目標を達成するための方略を、デザインし、吟味検討し、そして実行/履行する、という一連の過程である。

■ Information literacy

情報リテラシー

The ability to know when there is a need for information, to be able to identify, locate, evaluate, and effectively and responsibly use and share that information for the problem at hand.

情報リテラシーは、取り組んでいる問題の解決のために、まずどの過程で情報が必要であるかを察知し、どのような情報が必要かを見極め、その情報を入力し、吟味し、効果的で倫理的/法的に適切な形で使用し、必要な範囲で共有できる能力である。

【Intercultural Competence】

■ Intercultural knowledge and competence

異文化知識・能力

Intercultural Knowledge and Competence is "a set of cognitive, affective, and behavioral skills and characteristics that support effective and appropriate interaction in a variety of cultural contexts.

異文化知識・能力とは、「多様な文化的文脈において効果的で適切なインタラクションを行うのを下支えする認知的・情意的・行動的なスキルと特質の集合」のことを言う。

【Leadership and Management Function】

■ Project management skills

プロジェクトマネジメントスキル

■ Leadership skills

リーダーシップスキル

■ Teambuilding skills

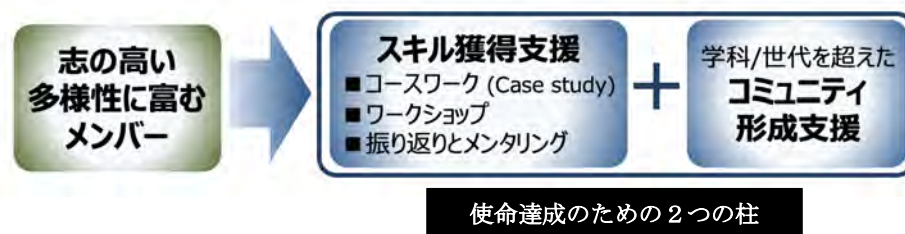
効果的なチームづくりのための資質・振る舞い

Behaviors under the control of individual team members (effort they put into team tasks, their manner of interacting with others on team, and the quantity and quality of contributions they make to team discussions.)

効果的なチームづくりのために求められる、個々のチームのメンバーの行動（チームのタスクのために注ぐ努力、チームメンバーとの関わり方、チームでの議論に対する貢献度（質的および量的））。

使命達成のための方略

本プログラム履修生が上述した修了時コンピテンシーを獲得し、プログラムが上述した使命を達成するために、(1) 志の高い、多様性に富むメンバーを集め、(2) 修了時コンピテンシー獲得の支援と、在校生メンバーや卒業生メンバーが学科/世代を超えてお互いを刺激しあう(3) コミュニティ形成支援を、2つの大きな柱として、プログラムとして推進する。



以下では、(1) のためのアドミッションポリシー、(2) のためのカリキュラムポリシーおよび取り組み、(3) のための取り組みを紹介する。

アドミッションポリシー

本プログラムが掲げる育成目標に鑑みて、本学第1学年学生^{※1}のうち、下記に該当する者を求める。

- ・ヘルスサイエンス領域における将来のグローバルリーダーを目指すという視点から、前項で記した資質（本プログラム修了までに履修生が修得すべき資質（コンピテンシー））の習得の重要性を十分理解し、それに対して強い意欲・熱意を有し、コミットできる
- ・入学後の修学態度が良好である
- ・本プログラムが掲げる育成目標達成の観点、および本プログラム履修および正規科目履修に支障を来さないという観点から必要とされる一定レベル以上の英語運用力を有する

^{※1} 編入生も含め、若干名に限り、年度末に追加募集を行い第2学年前期からの履修を許可する場合がある。その場合、同様の選考基準・選考過程により選考する。なお、学業不振により留年した学生は除く。

カリキュラムポリシー

- ・本プログラムのコンピテンシーは、知識伝達型の授業などで短期的に修得できるものではない。したがって、授業では将来直面するであろう現実的で複雑な問題への取組（ケースメソッドやプロジェクトワークなど）を通して、低学年のうちから、学習ステージに適した形で実践的にそれらを修得する（スパイラル・カリキュラム）。また、科目の

- 一部または課外セッションとして、適宜ワークショップなどを実施する。
- **Technical Expertise** カテゴリーにおけるコンピテンシーで、その理解/応用のために系統的/包括的な学習機会が必要と思われるものについても、できる限り問題解決取り組みに絡めて効果的に学習できるようカリキュラムを組む。
 - 学習セッションは基本的にすべて英語で行う。
 - 海外留学参加を本プログラム修了要件とする。各履修生の長期的キャリアビジョンに沿った時期/内容の海外留学参加を通して視野を広げ、キャリアビジョンをより確立させ、そしてそれまでに修得した能力を更に磨く。単位取得を伴う海外留学プログラムのほか、海外の公衆衛生大学院など、本学の単位の取得を伴わない留学についても考慮される。感染症パンデミックなどの社会情勢に関連し、留学機会が提供されない場合には、当該修了要件の緩和などを適宜考慮する。
 - 高学年においては後輩の学習にチューターとして参加し、議論を深め刺激するとともに、教えることにより更に学習する（チュータリング「Tutoring Requirements」）。
 - 各科目の履修修了判定を得るためには、あらかじめ各科目で規定する修了要件を満たさなければならない。なお、履修修了に際する出席要件としては、東京医科歯科大学試験規則に准じて、講義及び演習では当該授業科目の授業時間数の3分の2以上、実習では当該授業科目の授業時間数の4分の3以上の履修を必要とする。
 - 本プログラムの履修科目については、全学科共通自由科目として単位付与を行う。
 - 学生の利便性および所属する学科/専攻における授業時間割に配慮し、授業時間を設定する。学科/専攻における時間割状況にもとづき、本プログラム科目の一部について規定時間帯の履修が不可能な場合においては、録画映像を通しての履修や長期休暇などにおける補講などにて対処する。
 - 医学部医学科および歯学部歯学科学生においては、他学科学生に比してより深い基礎医学知識/臨床知識の理解とその応用力養成の必要性が高いことから、本プログラム修了のために履修が必要な科目数が他学科/専攻の学生と比較して1つ多い（**Problem-solving in the Health Sciences**）。
 - 専門職業人育成のための教育機関であることに起因する授業時間割の過密さと学生への負担軽減に配慮し、本プログラム科目の履修時期には可能な限り余裕を持たせる。

修了時コンピテンシー獲得支援

メンバーのコンピテンシー獲得支援のために、プログラムでは以下が行われる。

• コースワーク

下左に示す8科目の履修を必須とする（各科目の詳細は後述）。保健衛生学科/口腔保健学科学生は、上から7つが必須科目であるが、本人が希望すれば下1科目も履修できる。下右は、学科のカリキュラム等を配慮して作成した、必須科目の推奨履修モデルである。あくまでも推奨モデルであり、具体的な履修計画策定・変更に関しては、早期にメンター（教員）に相談する

こと。なお、Applied Critical Thinking for Health Sciences (ACT)については、保健衛生学科／口腔保健学科の学生は必修科目と時間が重なるため、短期集中講座を隔年で春期休暇中に開講し、そこで履修することとしている。当該学科学生は、詳細について、早期にメンター（教員）に相談すること。

保健衛生/口腔保健学科学生必修科目

Course title	Pre-requisites
ACT Applied critical thinking	CTbc
MPP Moral and political philosophy for medicine	CTbc
LD Leadership (AY2022~)*	
FGH Fundamentals of global health	
DT Design thinking (AY2022~)*	
BRT Bio-social research topics	
FAN Facilitation and negotiation and (AY2022~)*	
RHS Problem-solving in the Health Sciences	MPP, ACT

*Tentative (may be subject to change)

Medical and dental students

1st year 2nd year 3rd year 4th year 5th year 6th year

Tutoring Requirement Need to earn 12 points

Health care sciences/Oral health care sciences students

1st year 2nd year 3rd year 4th year

Tutoring Requirement Need to earn 8 points

必修科目

必修科目の推奨履修モデル

HSLPにおける授業は、授業中に教員から知識を享受するという一方向性の授業ではなく、履修者が授業前に知識獲得（想起レベル）のための学習活動を行い、授業中はその知識を用いて問題解決のための議論（グループ・クラス全体など）など、より高い認知レベル（応用、分析、評価レベル）に到達するために学習活動に従事する、という、反転授業モデルに基づいている。また、授業中の学習活動では、実際の国際保健衛生問題事例や医療政策事例などの事例を題材とし、当該事例の本質的な問題を同定し、解決策を検討する、というケースメソッドを用いる。

・ワークショップ

メンバーの修了時コンピテンシー獲得のために、上記必修科目履修に加えて、特に集中的な概念理解やハンズオン特訓が効果的なコンピテンシーに対して、ワークショップを実施している。以下はその例である。

- Critical thinking bootcamp（履修開始年度の秋に受講）
- Facilitation bootcamp（履修開始年度の秋に受講）

・Tutoring requirement

修了時コンピテンシーは、ワークショップや科目履修のみでは十分に獲得できないものがほとんどである。それらコンピテンシーは、「基本概念を理解した上で、実践し、他者からのフィードバックなどを踏まえて実践経験を自身で振り返り、改善を図る」という「経験と振り返り」のサイクルを反復することを通して初めて獲得される。その「経験」「フィードバック」「振り返り」の機会を構造的に提供するものが、「Tutoring requirement」である。後述するHSLP societyのrepresentative、HSLP 必修科目の先輩チューター、Discussion Café^{※1}のタスクフォース、Find-Your-Role-Model session^{※2}の学生ホスト、など、様々な「経験」を通してTutoringのポイントを獲得することができる。医歯学科学生は12ポイント、保健衛生/口腔保健学科学生は8ポイントを獲得することが、プログラム修了のための必須要件の一つとなっている。

※1 <https://www.tmdu-global.jp/programs/dcafe/>

※2 <https://www.tmdu-global.jp/programs/fyrm/>

• Curriculum map

メンバーが、修了時コンピテンシーを獲得するための機会が、コースワーク（科目履修）やワークショップ、tutoring 活動、society master との振り返り/mentoring などにおいてどのように提供されるかを示したのが下の図である。

I: Introduced P: Practiced/developed M: Mastery		HSLP courses, workshops, tutoring options														Mentoring by Society Master					
		Critical Thinking bootcamp	Facilitation bootcamp	Applied Critical Thinking for Health Sciences	Moral and Political Philosophy	Leadership	Fundamentals of Global Health	Biopsychosocial Topics	Design thinking	Facilitation and negotiation	Problem-solving in the Health Sciences	Tutoring (course tutors)	Tutoring (Global Communication Workshop tutors)	Tutoring (society representatives)	Tutoring (Five-hour-Role-Model session test)		Tutoring (session task forces)				
		CTR	Fbc	ACT	MPP	LD	FGH	BRT	DT	FAN	PHS	Tutoring	Tutoring	Tutoring	Tutoring		Tutoring				
HSLP Competencies	Technical Expertise	Global health Knowledge				I			P						P						
		Humanities and social science knowledge relative to health sciences					IP									P					
		Linguistic skills	P	P	P	P	P	P	P	P	P	P	P	P	P	P	P	P	P		
	Reflective Learner Profile	Foundations and skills for lifelong learning	I			P	P					P	P	P	P	P	P	P	P	P	
		Communications	Oral communication	IP	P	P	P	P	P	P	P	P	P	P	P	P	P	P	P	P	
	Written communication					P	P	P					P	P	P	P	P	P	P	P	
	Problem Solving Function	Critical thinking skills	I			P	P	P					P		P	P			P		
		Creative thinking									P	P	P				P			P	
		Problem solving	I			P	P	P	P							M			P		
		Information literacy									P					P					
	Intercultural Competence	Intercultural knowledges and competence															P			P	
	Leadership and Management Function	Project management skills															P		P	P	
		Leadership skills															I	P			P
		Team-building skills																			P

修了時コンピテンシーを獲得するための機会が、コースワーク（科目履修）やワークショップ、tutoring 活動、society master との振り返り/mentoring などにおいてどのように提供されるかを示した図

• 振り返りとメンタリング

メンバーは、自身が属する HSLP society（後述）のマスター（教員）と定期的（1～2回/年）に個別面談を行う。個別面談に先んじて、メンバーは、修了時コンピテンシーそれぞれについて、自身が現時点でどの段階（マイルストーン）にあるのかを振り返り、今後に向けての方略を立てる。

(3) コミュニティ形成支援

プログラムがその使命を達成するためには、修了時コンピテンシー獲得支援に加え、在校生メンバーや卒業生メンバーが学科/世代を超えてお互いを刺激しあうコミュニティ形成が不可欠であり、その支援として、以下が行われる。

• 文化の醸成（HSLP Way）

在校生メンバーや卒業生メンバーが学科/世代を超えてお互いを刺激しあうコミュニティを形成するためには、プログラムコミュニティメンバー全員（現役およびアラムナイも含めた）で行動原理・思考が共有され、それがメンバー一人一人の意思判断・行動に常に反映されることが必要である。すなわち、そのような組織文化が醸成されることが不可欠である。そのために、プログラムでは、行動指針・価値観・規定よりなる HSLP Way を掲げ、浸透を図っている。



HSLP Way の構成要素を下に記す。

Motto (who you are from today)

We are critical thinkers, tackling complicated health sciences problems through broad perspectives and with collaborative power.

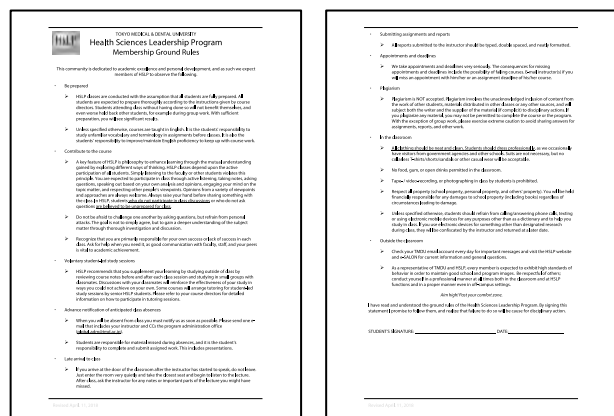
Learner profile (what we value / how and what you are expected to be)

- Be mission-driven
- Be visionary
- Be passionate
- Be an inquirer
- Be a critical thinker
- Be a collaborator
- Be courageous and a risk taker
- Be diligent and resilient
- Be a reflective learner
- Be principled

Community member profile (what we value / how and what you are expected to be)

- Be mindful and respectful
- Be supportive
- Be mutually inspiring
- Be healthily competitive

Ground rules (rules to create an ideal learning environment)



Ground rules

- **Retreat**

プログラム全体のコミュニティにおいて、在校生メンバーや卒業生メンバーが学科/世代を超えてお互いを刺激しあう機会として、年に1回 HSLP Retreat を開催している。毎年12月の第3日曜日（固定）に予定されており、参加可能な卒業生も同席し、1年間のプログラムとしての取り組みの共有や、在校生メンバーや卒業生メンバーの活躍やキャリアビジョンを共有するとともに、メンバー間の親睦を深め、ネットワーク形成を図っている。

- **Academic society**

在校生メンバーや卒業生メンバーが、より密に学科/世代を超えてお互いを刺激しあい、強固なネットワークを構築するための基盤となる枠組みを提供するために、学年/学科混成のサブコミュニティである HSLP societies（4つ）を組織し、それぞれに教員を society master として置いている。各 society は representative を在校生メンバーより毎年互選で任命し、同 representatives が society を運営している。

- **Casual/closed FYRM**

プログラムの卒業生メンバーや、比較的近い世代で医学・医療の様々な分野でキャリアを構築し、活躍している方を招き、興味のある在校生/卒業生メンバーとの意見交換をする機会を設けている。どのようなキャリアビジョンやキャリアミッションを抱いてきたのか、そのように抱くきっかけはなんだったのか、キャリア分岐点ではどのように考え、誰に助言を得て、最終的にどのような判断基準により意思決定したのか、今後の短/中長期ゴールは何か、どうやってそのゴールを達成するのか、など、メンバーの今後のキャリア構築のために有用な質疑を行う。

- **Chief students 制度**

在校生メンバーや卒業生メンバーが学科/世代を超えてお互いを刺激しあうコミュニティを形成するための触媒として、高学年クラスから若干名が「chief students（チーフ学生）」として選ばれ、メンバー間の結束強化と HSLP Way の浸透による適切な文化の醸成のために、様々な取り組みを主体的に行っている。毎年秋に、医/歯学科第4学年、保健衛生/口腔保健学科第3学年のメンバーの中から、現チーフ学生および教員により次期チーフ候補学生がノミネートされ、本人との面談の上、本人の任意合意にもとづき次期チーフが選定される。

必須履修科目の概要

以下に、本プログラムにおける必須履修科目を記す。

科目	授業責任者	講義等の内容
Applied Critical Thinking for Health Sciences (ACT) (1 単位)	關奈央子	Applied Critical Thinking for Health Sciences will allow students to practice logical structure; a core competency as a healthcare professional. Health-science-related topics provide opportunities for students to discuss, critique, build a logical argument, and construct teamwork with critical thinking skills. Students will have chances to make presentations and receive peer feedback to improve and acquire the skills necessary for problem solving.
Moral and Political Philosophy for Medicine (MPP) (1 単位)	高田和生	This course will examine ethical, economical, and political, as well as scientific aspects, of some important health policy issues currently facing the world. This course will thus cover, through the examination of those issues, relevant areas of philosophical theories, economics, including political and historical analyses to allow learners to understand background issues, history, and constraints, so as to be able to make a positive contribution to current debates. Throughout the course, learners will have ample opportunities to exercise and sophisticate many of the skills listed in the program's graduation competencies, such as critical thinking skills, inquiry and analysis, information literacy, communication skills, leadership skills, and teamwork.
Leadership (1 単位)	Trond Varlid	This course will examine the mindset, skills and behaviors you need to become an inspiring and effective leader—and help you develop leadership skills that you can apply in your daily job and life situations. You will learn certain leader frameworks and concepts and how they may apply in your context—as well as understand the difference between leadership and management, and required behaviors for each of these. We will look at leadership from several perspectives—what it means for you as an individual, as well as at a team and organizational level—including the challenges of driving innovation and change. The course is focused around cases chosen to illustrate various aspects of being a leader, and which you are asked to study and reflect upon—and which we will also examine and discuss in class. You are encouraged and expected to think by yourself and actively participate in our class discussions, as well as on the course message board. Through this course you have the opportunity to become more aware of your own personal characteristics and create a road map for developing yourself into a successful leader who will make a real difference for better patient and healthcare outcomes.
Fundamentals of global health (1 単位)	岡田卓也	In recent years, people, goods, funds, and services come and go across national borders; Era of Globalization. Healthcare professionals are also required to understand and practice the concept and the standard of globalization. On the other hand, differences in cultures, languages or religious beliefs could be obstacles for the progress of globalization. The disparities in economy or medicine have spread in reality. The aims of this course are to acquire deep knowledge related to global health, and to simulate superior global actions even in difficult situations. This course is based on the discussion of participants themselves. Students' preparation and participation are the keys to student success.
Biosocial Research Topics (BRT) (1 単位)	Rebecca Carlson	Building on the biosocial toolkit introduced in IMA, students will begin to explore the distal causes of global health issues, focusing in particular on how history, power and social inequality contribute to ongoing health disparities around the world. Topics such as the 2014 Ebola outbreak in West Africa and the global HIV epidemic will be explored with a focus on uncovering and analyzing the relevant structural factors. Students will complete a semester long group research project on a selected topic, improving their critical thinking, communication, information literacy and inquiry and analysis skills.

科目	授業責任者	講義等の内容
Design thinking* (1 単位)	TBA	TBA
Facilitation and negotiation* (1 単位)	Trond Varlid	TBA
Problem-solving in the Health Sciences (PHS) (1 単位)	高田和生	As the last course to undertake in HSLP, this course will challenge you with difficult tasks and force you to use and sophisticate all the skills listed under the HSLP graduation competencies. For this purpose, we will use problem-based learning (PBL) in this course. The course is structured around cases which will be chosen carefully from important contemporary issues in medicine, and tasks will be formulated so that they are complex, difficult, and challenging, and require a well-thought out step-wise plan to solve. Each group will have a fixed tutor throughout the course who will assess the group's problem solving and individual student's participation as well as contribution to their group's problem solving, leadership skills, management skills, and teambuilding skills for summative as well as formative purposes.

*いずれも予定であり、変更となる可能性あり。

必須履修科目の履修時期および履修に際しての必須要件

以下に、本プログラムにおける必須履修科目の履修時期および履修に際しての必須要件を記す。

科目名	開講時期	時間 ^{※2}	曜日 ^{※2}	回数	必須要件
Applied Critical Thinking for Health Sciences (ACT)	後期	17:00~18:20	火	12	Critical Thinking bootcamp の受講
Moral and Political Philosophy for Medicine (MPP)	後期	18:30~20:10	火	12	Critical Thinking bootcamp の受講
Leadership (LD) ^{*1}	前期	18:00~21:00	木	6	特になし
Fundamentals of Global Health (FGH)	後期	17:00~18:20	木	12	特になし
Biosocial Research Topics (BRT)	後期	18:00~19:20	木	12	特になし
Design Thinking (DT) ^{*1}	前期	18:00~21:00	水	6	特になし
Facilitation and Negotiation (FAN) ^{*1}	前期	18:00~21:00	木	6	特になし
Problem-solving in the Health Sciences (PHS)	後期	17:00~19:00	水	12	MPP の修了または同時期履修 ACT の修了

^{*1} 2022 年度新規開講予定科目であり、変更となる可能性あり。

^{*2,3} 学科/専攻における時間割状況にもとづき臨時で変更する場合がある。また、学科/専攻の必須/選択科目履修のため参加できない授業分については補講を行う。

履修継続要件、修了要件、履修復帰要件

修了・履修継続・復帰の判定および承認は、統合国際機構において行う。

履修継続要件および修了要件

医学部医学科学生および歯学部歯学科学生

(第1学年から第2学年への進級^{※1}に際しての本プログラム履修継続のための要件)

- ・ 入学からの通算 GPA^{※2}にもとづく学年内席次が原則上位2/3以内であること
(HSLP履修継続と学科/専攻における学習との両立の実現/維持可能性判断のために本要件を設ける)
- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること

(第2学年から第3学年への進級^{※1}に際しての本プログラム履修継続のための要件)

- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること

(第3学年から第4学年への進級^{※1}に際しての本プログラム履修継続のための要件)

- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること

(第4学年から第5学年への進級^{※1}に際しての本プログラム履修継続のための要件)

- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること

(第5学年から第6学年への進級^{※1}に際しての本プログラム履修継続のための要件)

- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること

(本プログラム履修修了のための要件)

- ・ 本プログラムにおける必須履修科目の単位を全て取得していること
- ・ チュータリング^{※3}を修了していること
- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること
- ・ TOEFL iBT 100点以上 (またはプログラムが認める他の外部英語検定試験 (4技能) でこれに相当する成績)、または HSLP 応募時の点数より 20点以上のスコアアップ (あるいは相応の英語力基準を満たすこと)
- ・ 第2学年終了時まで、最低1回は“Find-Your-Role-Model” Session に参加していること (2020年度秋以降に履修開始したフルメンバーから適用)
- ・ HSLP のコンピテンシーすべてについて Capstone に到達していること
- ・ 単位取得を伴う海外留学プログラムへ参加していること (海外の公衆衛生大学院など、本学の単位の取得を伴わない留学についても考慮されうる)

※1 学業成績を理由とする留年となった場合は、原則として履修継続要件を満たさないとする。

※2 各学科専門科目履修内規による。

※3 詳細はチュータリング要項に記載。

医学部保健衛生学科学生および歯学部口腔保健学科学生

(第1学年から第2学年への進級^{※1}に際しての本プログラム履修継続のための要件)

- ・ 入学からの通算 GPA^{※2}にもとづく学年内席次が原則上位2/3以内であること
(HSLP履修継続と学科/専攻における学習との両立の実現/維持可能性判断のために本要件を設ける)
- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること

(第2学年から第3学年への進級^{※1}に際しての本プログラム履修継続のための要件)

- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること

(第3学年から第4学年への進級^{※1}に際しての本プログラム履修継続のための要件)

- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること

(本プログラム履修修了のための要件)

- ・ 本プログラムにおける必須履修科目 (Problem-solving in the Health Sciences (PHS)を除く) の単位を全て取得していること
- ・ チュータリング^{※3}を修了していること
- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること
- ・ TOEFL iBT 100点以上 (またはプログラムが認める他の外部英語検定試験 (4技能) でこれに相当する成績)、または HSLP 応募時の点数より 20点以上のスコアアップ (あるいは相応の英語力基準を満たすこと)
- ・ 第2学年終了時までには、最低1回は“Find-Your-Role-Model” Session に参加していること (2020年度秋以降に履修開始したフルメンバーから適用)
- ・ HSLP のコンピテンシーすべてについて Capstone に到達していること
- ・ 単位取得を伴う海外留学プログラムへ参加していること (海外の公衆衛生大学院など、本学の単位の取得を伴わない留学についても考慮されうる)

※1 学業成績を理由とする留年となった場合は、原則として履修継続要件を満たさないとする。

※2 各学科専門科目履修内規による。

※3 詳細はチュータリング要項に記載。

履修復帰要件

全学科共通

各学科における上記の履修継続要件を満たさなかった場合、Associate Membership^{※1}へ移行となることがある。対象学生の Full Membership への復帰要件は以下の通りである。ただし、Full Membership への復帰申請可能時期は、最短で Associate Membership となった年度末とする。

- ・（全員に適用）本人がメンバー復帰を希望していること
- ・（GPA 基準に抵触または留年のためにアソシエイツにステータス変更となった学生に適用）アソシエイツ期間の通算 GPA（入学からの通算 GPA ではない）について、学年内席次が原則上位 2/3 以内であること
- ・（修学態度要件を満たさなかったためにアソシエイツにステータス変更となった学生に適用）復帰後に本プログラムにおける修学態度が良好であると期待できる十分な根拠（反省文、アソシエイツ期間の修学態度、など）がある

※1 詳細は、Associate Membership 履修要項を参照すること。

履修方法、履修取消、成績、授業時間、講義室

1. 履修方法

履修登録は、所定の期間内に登録の手続きを行わなければならない。履修登録の受付は統合国際機構グローバル化推進係にて行う。

2. 履修取消

履修取消とは、一旦履修登録した科目を一定期間（各科目の第3回目授業が開始されるまでとする）に本人からの請求により、履修を取り消すことをいう。履修取消を行った科目に関しては、成績証明書に記載されない。履修取消の手続きは、所定の様式によりグローバル化推進係に提出する。なお、期間内に履修取消の手続きを行わず、自ら履修を放棄した場合は「F」評価とする。

3. 成績

履修科目の成績は、本学学部専門科目履修規則に準じて付与される。各科目の責任者が成績評価を行い、その結果を各学科教育委員会に提出し、承認を受けた後各学部教授会で最終判定を行う。履修登録された科目の成績は、本学学部専門科目履修規則に準じて付与され、成績証明書に記載される。

4. 授業時間

科目・年度により異なるので、常に最新情報を WebClass で確認すること。不明な場合や相談については、統合国際機構グローバル教育推進係（global.adm@tmd.ac.jp、03-5803-4964）に連絡すること。授業時間は、学科/専攻における時間割状況にもとづき臨時で変更される場合がある。また、学科/専攻の必須/選択科目履修のため参加できない授業分についてはなんらかの形（オンデマンドビデオ受講も含む）で補講機会を与える。

5. 講義室

対面授業はM&Dタワー8階の「G-Lab」にて行われるので、場所を把握しておくこと。2020年度より、新型コロナウイルスパンデミックのため、授業/ワークショップ他は原則オンラインで実施している。今後状況を踏まえ適宜対面/オンラインで実施する。なお、G-Labに個人の所有物などを放置しないように注意し、ルールに従うこと。

